

「そこから続く長い列」

映像ディレクター 高橋夏子

鈴木げんさま

先日は素晴らしい講義と、そのあとの楽しい「放課後」、ありがとうございました。  
げんさんと良子さんに出会えて、直にお話を聞くことができ、本当にうれしいです！  
わが子のことも聞いて下さり、ありがとうございました。

げんさんのお話を聞いて頭に浮かんだのが、「そこから続く長い列」という言葉です。  
仲間、というのもおこがましいのですが、知人のジャーナリストの野村浩子さんが著した、  
市川房江さんについての本のタイトルがこれでした。

<https://www.akishobo.com/book/detail.html?id=1109&ct=9>

主にメディアで働く女性たちが、組織の壁を越えてゆるくつながっている「秘密結社」のようなものが、  
実はあり、上記の本の著者である野村さんとは、そこで知り合いました。

メディアの世界では、女性は「少数派」で、今でもやはり、「マイノリティー」かもしれません。  
いくら企画を出してもはねられてしまうような「ないこととされている問題」を世に伝えたり、  
次の世代が生きやすいようになるのはどうしたらよいかを考えたり、  
社会を少しでもよき方向に変える力になるための、つながりです。  
(男性を排除しようということではありません)

その源流に近いところにいるのが、ゆきさんかもしれません。  
私が今、自分の仕事を、それなりに壁にぶつかりながらも、こうして続けていられるのは、  
ゆきさんが切り開いてこられた道から続く、「長い列」があるからだと思います。

そして、げんさん。

げんさんが、歩まれてきた道、これから進んでいかれる道には、  
もしかするとわが子も「長い列」の一員として連なっていくのかもしれませんが。  
わが子が今、「マイノリティーでも、けっこう生きやすい」と感じているとしたら、  
それは、げんさんとも無関係ではないと思うのです。

ところで、げんさんの活動は、とても「デザイン的」ですね。  
活動の形も、伝え方も、紙にしたものも、まったく押し付けがましくないし、わかりやすくてカッコいい。  
どこも力んでいないように見えるのに、繊細で力強い根っこがあって、明るい方向に枝を伸ばして育  
っていく大樹のようです。その梢の下には、様々な人たちが安心して集まれると思います。  
映像制作にかかわる者として、見習いたいことばかりです。

げんさんとのご縁、とても有難いことだと思っています。どうかこれからもよろしく願いいたします。